

[課題演習概要]

道徳科学習における自我関与を促す手立ての検討 —考えの可視化に着目して—

福田 紫 織
Shiori FUKUDA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
初等教育高度実践力特別プログラム

(2024 年 1 月 10 日受理)

キーワード：小学校，道徳科学習，自我関与，可視化，数直線

1 研究の目的

本研究では，道徳科における自我関与を促すための手立てとして発問に加えて心の数直線（詳細は後述）に着目し，考えを可視化することの有効性について検証する。

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）特別の教科道徳編では道徳科の指導について「道徳的価値を自分との関わりにおいて捉える時間」と示している。「自我関与」とは，教材の登場人物の判断や心情を，児童，生徒一人ひとりが自分との関わりで深く捉え，自分自身にとって切実な問題として，道徳的価値を自覚すること（伊崎 2018）であり，自我関与を促すことでこれまで道徳科の課題として挙げられていた読み取り道徳からの脱却が可能になると考える。特に伊崎（2018）は「自我関与」を促す手立てや工夫の一つが，「あなたならどうするか？」「登場人物の行為について，あなたはどうか考えるか？」などの問いかけである」と示している。加えて「「考え，議論する道徳」の質的転換をさらに促進させるためには，自分事として「自分の考え」を引き出す「中心発問」の角度として，「中心人物はなぜその行為を選択したのか」「中心人物はなぜその行為をなし得たのか」を問うことが有効」（伊崎 2018）であると述べている。

さらに自分の考えを引き出す手立てとして考えの可視化に着目する。例えば，熊本市教育センターではハートモード，天秤モード，グラフモード，比較モードの「心の数直線」を提示している。「心の数直線」を用いることにより，児童は「自分なら…」という心の中にある考えを可視化し自分の

中にある道徳的価値を自覚することや，交流することで他者の考えを知ることが可能となる。西脇（2021）は「選択的な発問と自分の立場を可視化する場を設定する手立て」を用いた研究を行っており，その結果「話し合い活動における子どもの主体的な参加や，他者の意見を意識し新たな気づきを得ることに有効」であることを示している。

以上のことから「あなたならどうするか？」などの自分の立場や考えを問う発問に加えて，それらの立場や考えを可視化させることは，教材に対して自我関与を促すことが可能となるのではないかと考える。

2 研究の計画

授業実践においては，公立 X 小学校第 5 学年 A，B，C 組を対象に教材「サタデーグループ」（日本文芸出版，生きる力 5，実施日 2023 年 6 月 14 日・21 日，対象者計 100 名，以下授業 I）を，第 5 学年 A 組を対象に教材「やさしいユウちゃん」（日本文芸出版，生きる力 5，実施日 2023 年 11 月 8 日，対象者 35 名，以下授業 II）を用いて授業を実施した。授業 I では，展開段階において，児童に授業者の発問に対して数直線を用いて自分の考えに近いところに丸を付けさせ，その理由を記述させたのち，ペアや全体発表を通して対話活動を設定した。授業 II では，展開段階において，授業者の発問に対して児童にどの程度自分は賛成・反対の気持ちがあるのかをハート図に色塗りさせ，その理由を記述させたのち，ペアや全体発表を通して対話活動を設定した。色を塗る際の図をハートの形とし，本研究ではハート図とする。これは，「心の

数直線」のハートモード（熊本市教育センター）を参照し、ワークシートに表出できるようにしたものである。授業実践後の分析は、どちらの授業も展開段階における心の数直線とその記述を分析の対象とした。自分との関わりにおいて考えられているかの基準を、登場人物の心情ではなく、自分がどのように考えているのかを記述していることと設定した。

3 研究の内容

授業Ⅰでは展開段階において、「自分がサタデーグループの一員だった場合、掃除したことを周りの人に褒めてもらえなかったら、サタデーグループに参加したことを後悔しますか」と発問し、数直線を用いて心情を可視化させた結果、全員が数直線上にある4段階の選択肢から、自分の考えに近い箇所に丸をつけることができていた。その後、ワークシートにその選択肢を選んだ理由も記述させた。分析においては自分の考えに近いところに丸を付けることができているか、その場所に丸を付けた理由を「もし自分が～だったら」など自分の経験や心情との関わりで記述しているかを対象とした。児童の意見としては「褒められないとやる気が出ないから少し後悔する」「せっかく掃除したのに褒められないのは残念だけれど、自分たちで綺麗にした公園を見て掃除してよかったと思うからどちらかといえば後悔しない」の意見があり、9割程度の児童が自分との関わりにおいて考えられていた。

授業Ⅰでは可視化において4段階の選択肢を用い、その理由を記述させた。「少し後悔する」「どちらかといえば後悔しない」を選択した児童は後悔する考えとしない考えの両方を合わせもっていると考えられるが、その理由についてどちらか一方の内容しか記述していない児童が多かった。両方の考えを合わせもつ場合、どちらの考えについても自分との関わりにおいて考えさせることができるよう、設定する必要があるだろう。

授業Ⅱでは展開段階において「あなたはユウコが行った親切についてどのように考えますか」と問い、ハート図を用いて自分の心情を可視化させた。その際、賛成・反対両方の意見をもつ児童もいると想定し、それぞれの理由を記述できるよう、ワ

ークシートに欄を設けた。理由を記述させた後、ペアでの対話活動、全体交流を設定した。どの児童も自分の考えをハート図に色を塗って表すことができていた。授業Ⅱの分析では、分析の対象を自分の考えをハート図に色を塗って表せているか、色の理由を「もし自分が～だったら」など自分の経験や心情との関わりで考えられているかを対象とした。自我関与をさせて考えられている児童の意見として「賛成の理由は、(省略)自分だったら「やりなよ」と言うと思うから」や「反対の理由は、(省略)そうしてあげてもいいのではないかと少し思うから」などがあつた。登場人物の心情を尋ねるのではなく、登場人物の行動について自分はどのように考えるかを尋ねることで、児童全員が教材に対して自我関与させ自分の考えをハート図に表出できていた。しかし、ハート図で表出した色の理由について自分との関わりで記述していた児童が25名中（ワークシートの回収人数）9名であり、課題としてあげられる。これは、発問の際に児童に対してワークシートの記述に関する指示が不足していたためと考えられる。

4 成果と課題

成果として自分の立場を明確にして可視化できる活動を取り入れることは、児童が道徳的価値を自我関与させて考えるうえで有効であることが明らかとなった。

課題として児童の実態に応じ、どのような発問をすると、自我関与を促し考えさせることができるのか吟味する必要がある。

主な引用・参考文献

- 伊崎一夫 2018 「「考え、議論する道徳」への質的転換に関する研究(1) —読み物教材における「自我関与」の強化—」 『奈良学園大学紀要』 9 1-12
- 熊本市教育センター https://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/Heart-meter3/Heart-meter3_manual.pdf (参照 2024-1-9)
- 文部科学省 2019 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別の教科道徳編』 廣済堂あかつき
- 西脇悠太 2021 「1人1人が考えを表出し、主体的参加を促す道徳授業を目指した取組—選択的な発問と、立場を可視化する授業デザインを通して—」 上越教育大学学校教育実践研究センター 『教育実践研究』 31 175-180

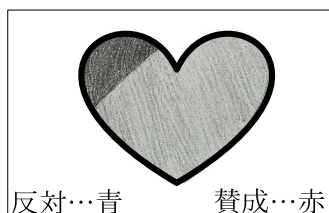


図1 ハート図例